

「神はすべてを益とされる」Ⅶ

ローマ8：28

堀田修一 23・10・8

試練に会う私たちへの最大の励まし、慰め、希望のみことば＝ローマ8：28の講解の最後のまとめの説教となります。みことばに耳を傾けましょう。

I 神がすべてを支配される摂理に不動の確信をパウロは持っていました。人生のあらゆる出来事は、神が積極的に働かれているものか、神が許可されたものです。私たちには理解できないことも起きますが、神の最善を信じましょう。「ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう」ローマ11：33。この偉大な神への信頼は失望や落胆を歌に変えます。神を信頼するパウロは鞭うたれ牢に入れられた時もなお、神に祈りつつ神を賛美しました。使徒16：25。すべてのことが、外見上の不利有利に関係なく、神は益とされます。悲しみや試練や失望しそうになる時、ローマ8：28を信じる人に神は平安を与えられます。

II どんな人々のためにすべてが益となる＝「神を愛する人たち（滅んで当然の罪人の自分を神がまず愛された愛と救いを知り、自分の罪を悔い改め主を信じ神の愛に感謝し神を愛し礼拝する人々）、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たち（神のご計画にしたがって召され、救いに招かれ主を信じ救われた人々）。8：28。

III 「益」とは。人間的に都合の良い事ばかりという益ではない。「益」の原語：アガソス＝善。善とは神のみこころにかなうこと、神の御計画になることです。それが→8：29，30で語られている＝神の御計画にしたがって救われ神を愛する人々が、御子のかたちと同じ姿に変えられ続け成長し、最終的には栄化されるという益→「霊の父（父なる神）は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練される（私たちを愛しておられるので私たちに試練や苦難を与え霊的に整えられる）のです」（ヘブル12：10）。益とは、神の愛の訓練により、私たちが神の聖さ、ご性質（聖、愛）に変えられ続けることです。8：29の御子の姿に変えられるという益は、物質的な繁栄の中で与えられるとは限りません。逆も多いのです。事業の成功、繁栄は、ある人々の聖さ、誠実さを失わせるものとなります。健康を害したり、苦しみの中で、深く主を知り主の御姿、ご性質に変えられていく人々もおられます。

IV 「すべてのことを働かせてくださる神」。神を愛する心、神を信頼する心は、深く心の痛手を受けた時や、苦難の時ですら、神が働いておられるのを察知します。神はすべてのことのうちに働いておられます。偉大な神の働きは、限界のある私たちには、いつもはっきりと理解し見分けることができるとは限らない。すべてが静止しているように見える時にも神は働いておられま

す。神の御支配のもとで、星、惑星は定められている進路を維持し、大洋も定められた限界の内にとどまっている。神が働いておられないように見える時、待ちきれなくなって、自分の手で物事を支配しようとし、自分自身が摂理の神になろうと決してしてはならない。※証し。苦しみも喜びも日常に起こることは、神が人生という織物を織る原料となります。限界的な状況は、まさしく私たちに耐え忍ぶ力を神が与えてくださるために用意された時です。人生のすべての出来事に神の御支配を認めましょう→「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる」箴言3:6。どこにおいても主と主の御支配を認めるなら、混乱の中に秩序が見いだされます。あらゆる領域にあらゆるものが神の御支配のもとにある。病、弱さ、落胆、不当な苦、いらだたせられること、実が見えない事などすべて神の御手に。私たちは、大きくは神が支配されていると認めても、小さな事柄まで神の愛の深い支配と関心事であると認めることが難しい時がある。しかし主は言われた。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10:29。すべての出来事に偶然というものは一つもありません。すべてのことは、賢明なご目的にしたがって神により許され、計画されている。私たちが神の子どもとして愛してくださる御父は片時も私たちを見守ることを止められませぬ。

V 自分に起こる出来事を正しく受け取る（神の御手にあるものとして受け止める。ある人を恨むかたちで受け取らない。神に赦しの心を求めて）ことが大切です。選り好みではなく、すべてを。どんな逆境も正しく受け取る（神の支配にあるものとして）なら益をもたらす。苦痛や弱さは、私たちのもろさを知らせ、神に拠り頼む者とする。混乱は、私たちの知恵の不足を示し、神に知恵を求める者に変えます。財政的な困難は、すべての与え主なる神に祈り求める者とする。誤りと失敗は、私たちの高慢を砕きへりくだらせる益となります。

VI 調和のある神の御計画。人生の出来事は、他の事と無関係には起きない。薬には、色々な成分が調合されています。ある成分とある成分が無秩序に混ぜられると害になることもある。しかし熟練した医師（魂の医者である神）の指示により成分が正しく調合されるとき、益となる薬となる。人生の痛い出来事が反省する良い薬ともなる。パークレーは、8:28をこう訳している→「神を愛する者たちに益となるように万事を混ぜ合わせて（blend）おられる（原語：「万時を一緒に働かせ」）。人生の経験も単独に取り出されると益には見えませんが、神が共に混ぜ合わせる（いろいろな出来事をつなぎ合わせる）時、益となる。立派な絵画が明るい部分と暗い部分が絶妙にマッチして傑作、益となるように。逆境にある時、不信仰な心は問いかける。「どうしてこんな事が益となるのだ」と。その答えは、「偉大な神が、人生の絵を描き上げるまで待ちなさい」。※証し。人生を振り返り、「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきて（みこころ、みことば）を学びました」（詩篇119:71）という体験をする。不信仰な者には、神の意図とかけ離れているように見える種々な人生の色を、偉大な霊的な芸術家である神は混ぜ合わされる。神は、主の教会にも、色々なタイプの人を加えられ、混ぜ合わされ、もまれ、謙遜にして組み合わされる。健全な教会は、一人の人の強い支配で成り立っていない。違いのあるお互いを尊敬し合い、神が見事に組み合わされる。人生は、機織りの上で織られる綴れ織りに似ています。美しく仕上げられるために、すべてが同じ色であってはなりません。暗い系も明るい系も必要。美しい模様になるのは、すべてが共に用いられ生かされた時。神

の計画された私たちの人生模様も同じです。きびしい試練の時、自分の現在の状況は例外だと考える誘惑が来る。しかし、そうではない。偉大な神は、例外なく、すべてを混ぜ合わせ、ブレンドして、益（主の品性への成長。教会全体の霊的な成長）としてくださいます。「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、よいことのための計らいとしてくださいました」創世記50：20。私たちの人生のすべての出来事に、神はふさわしいご目的を持っておられます。私たちは今、そのすべてを理解できるわけではありませんが、ある事の意味は、この地上で、ある事は、やがて主の再臨の日に、神はすべてを分らせて下さいます。失望しそうになるどんな時も「すべてをともに働かせて益としてくださる神」、私たちを永遠に抱いて下さる神を見上げ信頼して歩みましょう。賛美「神のなさることは すべて正しい この思い常に かけて歩む 父なる御神は 私をいだく とこしえまでも」。

祈り：すべてをともに働かせて益としてくださる神に感謝します！